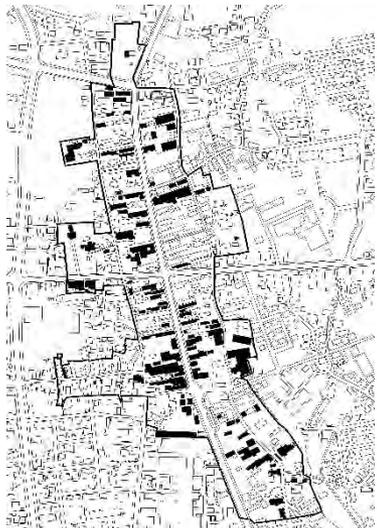


1 保存地区の概要

地区名	喜多方市小田付
種別	在郷町・醸造町
町面積	約15.5ヘクタール
選定年月日	平成30年8月17日

特徴

小田付は、「蔵の町」として知られる喜多方市の中心市街地に位置します。天正10年(1582)に町割が行われ、近村から市が移されました。近世には酒や味噌・醤油の醸造業も盛んになり、会津北方の交易の中心地として発展してきました。近世末期までに成立した地割の上に、店蔵や多様な土蔵が建ち並ぶ町並みは、在郷町・醸造町としての特徴的な歴史的風致を良く伝えています。



推定明治4年
岩代国耶麻郡小田付村絵図

2 保存地区のあゆみ

- 昭和54年度(1979) 小田付地区の一部を含む伝統的建造物群保存対策調査実施
※この調査においては伝建地区決定に至らず
- 平成15年度(2003) 「会津北方小田付郷町衆会」発足
- 平成25年度(2013) 「小田付まちづくり協議会」発足
- 平成26年度(2014) まちなみ調査(保存対策予備調査)実施
- 平成27年度(2015) 伝統的建造物群保存対策調査実施
- 平成28年度(2016) 喜多方市伝統的建造物群保存地区保存条例制定
- 平成29年度(2017) 小田付伝統的建造物群保存地区の都市計画決定及び保存計画告示(平成30年3月30日)
- 平成30年度(2018) 重要伝統的建造物群保存地区選定
- 令和元年度(2019) 修理事業開始
防災計画策定基礎調査実施



3 保存地区の保存と整備

■ 保存事業

令和元年度より2件の修理事業を実施しました。



修理前



修理後

■ 消雪施設整備・無電柱化事業

平成25年度に「暮らし続けられるまちづくり」をコンセプトとした「小田付地区まちづくり整備計画」が策定されました。小田付の歴史や文化、伝統を活かしながら、生活者や歩行者にとって安全・安心な道路空間を整備するため、平成27年度より、街なみ環境整備事業を活用した消雪施設整備と無電柱化事業が実施されました。今後は、街路灯の設置や側溝の整備、道路の美装化を予定しています。



無電柱化による景観整備の効果



4 保存地区の活用とまちづくり

■ 伝統的建造物の活用

蔵の保存と活用による観光振興及び地域住民の交流促進のため、「東町蔵屋敷会陽館」として整備を行いました。1棟は観光案内所・交流スペース、もう1棟は多目的スペースとして集会やイベント等で活用されています。



小田付観光案内所・交流スペース



活用の様子



多目的スペース

■ 地域おこし協力隊の配置

より魅力あふれるまちづくりを目指して、令和2年4月より活動を開始しました。事務所は、コミュニティスペースとしても運営しています。HPやSNSによる情報発信、地区の賑わい創出のための活動を行っていきます。



蔵を利用した情報発信基地

5 住民等の取組

■ 会津北方小田付郷町衆会

平成15年に発足した同団体は、地域住民が主体となり、地元学生や大学、他団体と連携しながら、町並み保存と蔵文化の継承、地域の活性化を目的とした活動を展開してきました。今後も地区の保存団体として、様々な事業の展開を図ります。



高校生による蔵の修復



おたづき蔵めぐり

地元高校生と共に、古写真収集を行い、昔と今を比較した写真展を開催しました。古写真は未来へと歴史を繋ぐ貴重な資料です。



■ 小田付まちづくり協議会



地区のまちづくりを進める活動母体として、平成25年に設立されました。協議会は、地区住民代表や建築士会、観光物産協会、商工会議所、市内教育機関等から組織され、まちづくりに関する情報共有、検討や提案、実地活動等を行います。

■ 喜多方南町2850プロジェクト

東日本大震災で蔵が一部崩壊したことを契機に、アーティストや大学等と連携しながら、空き家・空き蔵・空き地の活用を検討、実践しています。

【令和元年度の活動事例】

- (1) 建物の清掃と修繕
- (2) 簡易的な水場作りと将来的な水場のデザインを検討
- (3) 建物と周辺を使用し、「市」を開催



地元住民や学生と空き家の清掃



水は重要なキーワード

■ みんなでつくろう 小田付重伝建 標識プロジェクト

特定物件であることを示すサインプレートのデザインに地域の歴史や住民の方の思いを落とし込み、価値の再発見や地域の誇りに繋がるサインプレートを作成します。



撮影した地区の宝をプレゼン



表彰式